

●日本の主な火山活動

平成 16 年 (2004 年) 9 月の主な火山活動は次のとおりである。

【噴火した火山】

- ・ 浅間山 : 1 日、23 日及び 29 日に中爆発が発生し、16~17 日には連続的に小規模な噴火が発生した。1 日の噴火に伴い火山活動度レベルを 2 から 3 に変更した。
- ・ 薩摩硫黄島 : 従来からの山頂噴火が継続したが、比較的静穏な火山活動であった。
- ・ 諏訪之瀬島 : 従来からの山頂噴火が継続したが、比較的静穏な火山活動であった。

【活動が活発な状態にあるか、もしくは観測データ等に変化のあった火山】

- ・ 雌阿寒岳 : ポンマチネシリ 96-1 火口の高温状態が続いている。
- ・ 十勝岳 : 62-2 火口の噴煙活動は活発で、高温の状態が続いている。
- ・ 樽前山 : A 火口及び B 噴気孔群の高温状態が続いている。
- ・ 三宅島 : 火山ガス (二酸化硫黄) の放出量は、2002 年秋以降、日量 3 千~1 万トン程度で概ね横ばい傾向が続いている。
- ・ 福徳岡ノ場 : 4 日及び 21 日に変色水が確認された。
- ・ 阿蘇山 : 規模の大きい土砂噴出は発生しなかったが、小規模な土砂噴出がほぼ期間を通じて観測され、浅部の熱的な活動が依然活発であった。
- ・ 霧島山 : 御鉢火口の噴気活動は依然やや活発な状態が続いている。

以下、各々の火山の主な活動について解説する。図表その他において、噴火した火山を▲、活動が活発な状態にあるか、もしくは観測データ等に変化のあった火山を●、その他記事を掲載した火山を◇、火山活動度レベルを①②等の丸付き数字で表記する。

また、末尾の資料として、期間中に発表した火山情報の一覧表及び 9 月 9 日に開催された浅間山の火山活動に関する火山噴火予知連絡会拡大幹事会の見解を掲載する。

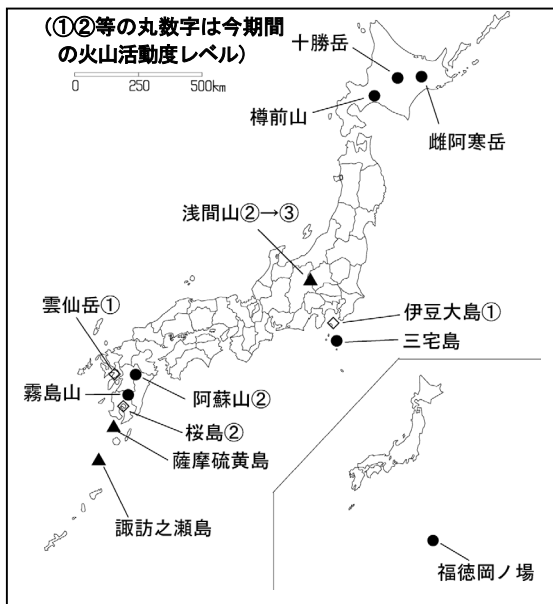


図 1 今回記事を掲載した火山

火山名	記号	平成15年			平成16年(2004年)									
		10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
浅間山	レベル記号	●	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②
伊豆大島	レベル記号	●	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①
阿蘇山	レベル記号	●	②	②	②	③	③	②	②	②	②	②	②	②
雲仙岳	レベル記号	◇	①	①	◇	◇	◇	①	①	①	①	①	①	①
桜島	レベル記号	◇	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②
雌阿寒岳		◇	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	●
十勝岳		●	●	●	●	▲		▲						●
樽前山		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
吉妻山					●	●	●							
韋津白根山									●					
富士山		◇	◇								●			
箱根山						●								
伊豆東部火山群									●	●	●	●	●	●
三宅島		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
伊豆鳥島		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
噴火浅根		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
硫黄島														●
福徳岡ノ場		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
霧島山		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
薩摩硫黄島		▲	●	●	●	●	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
口永良部島		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
諏訪之瀬島		▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
硫黄島														●

(※: 気象庁職員が山頂付近で作業を行った際に、山頂付近に限定されると思われる微弱な降灰を確認した。これまでも同様の現象はあったものと思われる。)

表 1 過去 1 年間に活動があった火山等

各火山の活動解説

火山名の後の [噴火・爆発・噴煙・噴気・地震・微動・空振・地殻変動・熱・火山ガス等] は、掲載した理由となった火山現象を示す。

● 雌阿寒岳 [熱]

期間中、ポンマチネシリ 96-1 火口の噴煙の状況に変化はなく、高温の状態が続いていたと推定される。

10 月 1 日 (期間外) に実施した調査観測では、赤外放射温度計¹⁾による観測でポンマチネシリ 96-1 火口の最高温度は約 340℃と高温であった (測定距離 50m、前回 (6 月 6 日実施) は約 350℃)。

地震の発生状況、地殻変動の状況等に特に変化はなかった。

● 十勝岳 [噴煙・熱]

62-2 火口では活発な噴煙活動が続き、期間中白色の噴煙が概ね火口縁上 200m で推移した。

9 月 12 日に実施した調査観測によると、62-2 火口内には透明な火山ガスを強い勢いで噴出する非常に活発な噴気孔が引き続き確認され、赤外熱映像装置¹⁾の観測 (測定距離 160m) による最高温度は約 200℃と高温であった (前回 (8 月 6 日実施) は約 180℃)。その他、62-2 火口周辺の地熱域、大正火口及び旧噴火口の状況に変化はなかった。

地震の発生状況、地殻変動の状況等に特に変化はなかった。

● 樽前山 [熱]

期間中、A 火口及び B 噴気孔群の噴煙の状況に変化はなく、高温の状態が続いていたと推定される。

10 月 1 日 (期間外) に実施した調査観測では、赤外放射温度計¹⁾による観測で A 火口の最高温度は約 600℃ (測定距離 5 m、前回 (5 月 26 日実施) は約 620℃)、熱伝対温度計¹⁾による観測で B 噴気孔群の最高温度は約 430℃ (前回 (5 月 26 日実施) は約 410℃) と高温であった。

地震及び微動の発生状況、地殻変動の状況等に特に変化はなかった。

- 1) 赤外放射温度計及び赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を検知して温度を測定する測器であり、一方、熱伝対温度計はセンサーを直接熱源に当てて温度を測定する測器である。前者は熱源から離れた場所から測定することができる利点があるが、大気その他の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合がある。

▲ 浅間山 [爆発・噴火・噴石・火山^{れま}・降灰・空振・溶岩・火映・地震・微動・火山ガス・地殻変動]

1 日、23 日及び 29 日に中爆発が発生し、16~17 日には連続的に小規模な噴火が発生した。1 日の噴火に伴い火山活動度レベルを 2 から 3 に変更した。(詳細は特集 1. 浅間山 2004 年噴火の概要を参照)

9 月 1 日 20 時 02 分に中規模の爆発的な噴火 (中爆発) が発生した。噴火に伴い、軽井沢測候所 (山頂火口の南約 8 km) で大きな爆発音と 205Pa²⁾ の空振が観測され、測候所に設置された監視カメラで噴石が山腹まで飛散するのが観測された。悪天のため噴煙の状況は不明であった。2 日に行った現地調査によると、山頂火口から北東方向に火山灰、火山^{れま}が降下していた。降灰の範囲は福島県北部太平洋沿岸まで及んだ。噴火に伴い火山活動度レベルを 2 (やや活発な火山活動) から 3 (山頂火口で小~中規模噴火が発生) に変更した。浅間山が噴火したのは昨年 4 月 18 日以来、山腹以遠に噴石を飛ばすような規模の噴火については 1983 年 4 月 8 日以来であった。

15 日 11 時 53 分以降小噴火が頻発するようになり、16 日未明から 17 日夕方まではほぼ連続的に小噴火が発生した。その後も小噴火が頻発する状態が 18 日 21 時頃まで続いた (図 2)。噴煙の高さは火口縁上 1,000~1,500m で推移し、軽井沢測候所では断続的に弱い爆発音と空振 (最大 9 Pa²⁾) を観測、爆発地震も観測された。この一連の噴火による火山灰は北西の風により南東方向に流され、東京を含む関東地方南部の広い範囲で降灰が確認された。東京 (千代田区大手町) で降

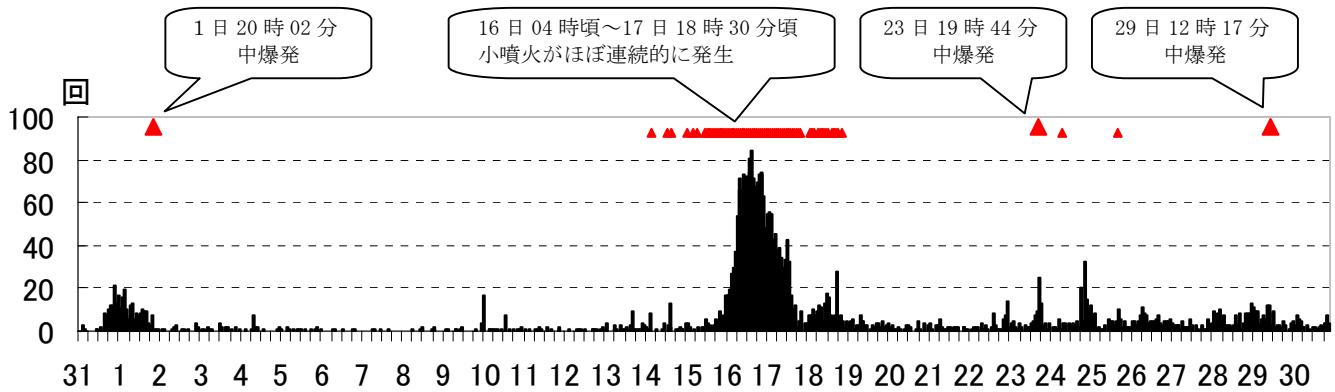


図2 浅間山 噴火の発生状況と地震の時間別回数 (2004年8月31日～9月30日)
 (▲ : 中規模の噴火、△ : 小規模以下の噴火)

灰が観測されたのは1982年4月26日の浅間山の噴火以来であった。

23日19時44分に中爆発が発生、軽井沢測候所で爆発音と体感空振を観測した。噴煙等の状況は悪天のため不明であった。爆発に伴い軽井沢町追分及び御代田町御代田で震度1を観測した。降灰の範囲は山形県まで及んだ。

29日12時17分に中爆発が発生した。噴煙等の状況は悪天のため不明であった。爆発に伴い軽井沢測候所で弱い爆発音を観測し、御代田町御代田で震度1を観測した。降灰は山頂の北側で確認され、東京大学地震研究所の調査によると、火口から4km付近で最大直径4cm程度の火山礫が確認された。

16日に国土地理院が実施した合成開口レーダーによる観測で、火口底北東側にドーム状の地形が確認され、火口底に溶岩が噴出したと推定された。18日に長野県の協力により実施した上空からの火口観測で、赤外熱映像装置による火口内の温度観測により、火口底の北東ないし北側に直径約100mの高温部が確認されたが、これは上記の溶岩に対応すると考えられる。なお、10月1日

(期間外)に長野県警察の協力により実施した上空からの火口観測では、火口底の高さが9月1日の噴火以前よりもやや上昇し、山頂からの深さが約190mとなっていた(8月の時点での最深点は約250m)。また、火口底の北東側に直径70m、深さ約40mのくぼみが確認され、これは上記溶岩の一部がその後の噴火で吹き飛ばされて形成されたものと考えられる。

山麓に設置された高感度カメラで微弱な火映がしばしば観測され、16日以降時々軽井沢測候所から肉眼でも観測された。

地震活動は、微小な地震が8月31日(前期間)15時頃から9月1日20時02分の中爆発に至るまで多発し、8月31日の日回数は114回、9月1日は191回であった。その後一時少なくなったが、13日以降やや多くなり、小噴火がほぼ連続的に発生した16日未明から17日夕方にかけて噴火に伴う地震が多発し、日回数は16日が1,401回、17日が639回であった。その後、期間の終わりまで日回数40～212回と多い状態で推移した(図2)。

火山性微動は、9月1日20時02分の中爆発直後から噴火に伴い発生したとみられる微動が同日23時頃まで続いた。その後、9月上旬には一時発生回数が少なくなったが、中旬以降は15日に19回発生したのをはじめ、1日あたり数回～十数回とやや多い状態で推移した。

3日、7日³⁾及び13日に実施した火山ガスの観測では、二酸化硫黄の放出量は日量880～3,090トンで、2003年2月6日にごく小規模な噴火が発生した際に観測された放出量(日量1,900～2,700トン)と同程度であった。

山頂の北北東約2.5kmに設置した傾斜計によると、1日、23日及び29日の中爆発の前に山頂直下が膨らんでいることを示すと思われる変化が観測され、1日及び23日の噴火では、直後に急激に山頂直下がしぼむような変化が観測された。また、16日未明～17日夕方にかけてほぼ連

続的に小噴火が発生した際には、その期間中、ゆっくりと山頂直下がしばむような変化が観測された。GPS による地殻変動観測及び光波測距観測では特に顕著な変化はなかった。

- 2) 空振はおおむね 10Pa (パスカル) を超えると身体に感じられるようになり、数百 Pa ではガラスが割れるなどの被害を生じる可能性がある。
- 3) 陸上自衛隊の協力による。

◇ 伊豆大島

火山活動度レベルは 1 (静穏な火山活動) であった。

地震活動、噴煙活動ともに静穏で、地殻変動等のその他の観測データにも異常な変化はなく、火山活動は落ち着いた状態が続いた。

● 三宅島 [噴煙・火山ガス・地震]

多量の二酸化硫黄の放出が続いた。

噴煙活動は引き続き活発で、白色噴煙が山頂火口から連続的に噴出した。期間中の噴煙の高さの最高は火口縁上 1,000m であった (前期間の最高は火口縁上 1,200m)。

上空からの観測⁴⁾では、噴煙活動に大きな変化は見られなかったが、山頂火口内の状況は噴煙のため不明であった。火山ガスの観測では、二酸化硫黄の放出量は日量 3,300~6,700 トンで依然多い状態であった (図 3)。今期間、山頂火口内の

噴気孔周辺の温度は噴煙のため観測できなかったが、全磁力の連続観測では特に変化は見られず、地下の熱的な状態に大きな変化はないものと考えられる。

山頂直下では、振幅の小さいやや低周波地震の活動が 2003 年 4 月以降活発な状態で推移しており、今期間も月回数 431 回とやや多い状態であった (前期間は 639 回)。

火山性連続微動の振幅は最近 1 年半以上大きな変化は見られていない。また、GPS 観測によると、三宅島のゆっくりした収縮を示す地殻変動が続いている。

- 4) 9 月 14 日、21 日及び 28 日に警視庁、東京消防庁及び陸上自衛隊の協力により気象庁が実施。

● 福徳岡ノ場 [変色水]

海上保安庁が 9 月 4 日に行った上空からの観測によると、福徳岡ノ場の海域から東南東方向に長さ約 100m、幅約 20m の乳白色の変色水が確認された。

また、海上自衛隊が 21 日に行った上空からの観測によると、同海域に半径約 1.8km の緑色の変色水が確認された。

● 阿蘇山 [土砂噴出・熱・微動]

火山活動度レベルは 2 (やや活発な火山活動) であった。

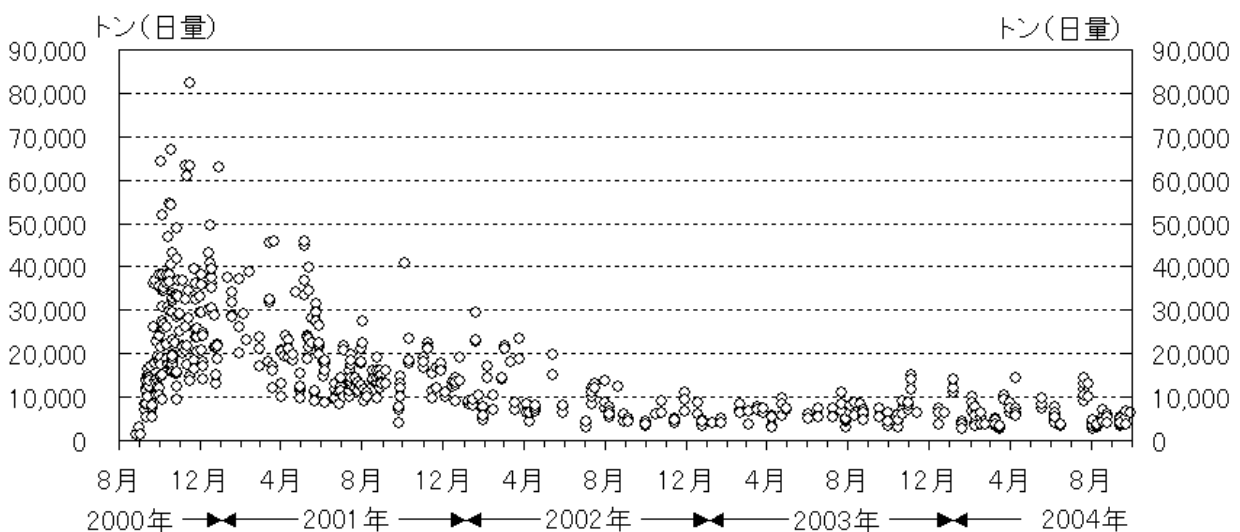


図 3 三宅島 二酸化硫黄の放出量 (日量に換算) (2000 年 8 月~2004 年 9 月)。
2002 年秋以降は日量 3 千~1 万トン程度でほぼ横ばいとなっている。

中岳第一火口では、2004 年 1 月 14 日に規模の大きな土砂噴出が発生して以降、湯だまり⁵⁾内で小規模な土砂噴出が断続的に発生している。今期間も高さ数 m の小規模な土砂噴出がほぼ全期間観測されたが、9 月 30 日の観測では噴湯現象は確認されたものの土砂噴出は確認されなかった。湯だまりの状況は、期間初めの色が灰色で湯量が約 3 割から、台風等の大雨による影響で、9 日には色が灰白色で湯量が約 7 割、24 日には色が灰緑色で湯量が約 8 割と変化し、表面温度も 61～71℃と前期間 (74～82℃) よりやや低下した。火口壁の最高温度は 138～187℃で前期間 (278～319℃) よりやや低下した。

噴煙の状況は、今期間を通じて白色で、噴煙高度の最高は火口縁上 600m で通常と比べ変化はなかった。

5 月 13 日から続いていた火山性連続微動は 29 日 16 時 32 分まで継続した。孤立型微動の発生回数は 1,587 回であった (前期間は 2,675 回)。

その他、A 型地震及び B 型地震の発生は少なく、GPS による地殻変動観測では火山活動に起因する変化は見られなかった。

- 5) 湯だまり：活動静穏期の中岳第一火口内には、地下水などを起源とする約 50～60℃の緑色のお湯がたまっており、これを湯だまりと呼んでいる。火山活動が活発化するにつれ、湯だまり温度が上昇・噴湯して湯量の減少がみられ、その過程で土砂を噴き上げる土砂噴出現象等が起こり始めることが知られている。

◇ 雲仙岳

火山活動度レベルは 1 (静穏な火山活動) であった。

地震活動、噴煙活動ともに静穏で、地殻変動等その他の観測データにも異常な変化はなく、火山活動は落ち着いた状態が続いた。

● 霧島山 [噴気・地震]

御鉢火口内で 2003 年 12 月に確認された噴気孔からの噴気活動は、消長を繰り返しながらも依然としてやや活発で、監視カメラで火口縁上 50～200m まで上がる噴気が時々観測された。9 月 9

～13 日に行った調査観測では、上記噴気孔から依然として勢いよく噴気が出ているのが確認されたが、3 月の観測時に比べるとやや弱まっていた。

今期間の御鉢付近を震源とする地震の回数は 36 回で前期間 (6 回) よりやや増加した。新燃岳付近の地震活動は低調で、火山性微動は発生しなかった。

また、23～24 日に韓国岳付近を震源とする地震がやや増加した。

◇ 桜島

火山活動度レベルは 2 (比較的静穏な噴火活動) であった。

期間中、噴火は発生しなかった (前期間は噴火 1 回)。噴煙活動も低調で、鹿児島地方気象台 (南岳の西南西約 11km) で降灰は観測されなかった (前期間の降灰が観測された日は合計 6 日で降灰量は 0.5 g/m²未満)。

▲ 薩摩硫黄島 [噴火・降灰・火山ガス]

9 月 25 日 09 時 37 分頃に噴火を観測した。噴煙の高さの最高は火口縁上 700m (灰白色) であった。鹿児島中央警察署硫黄島駐在所によると、25 日 09 時 30 分頃に集落 (硫黄岳の西南西約 3 km) で降灰があり、強い亜硫酸ガス臭があった。また、27 日にも強い亜硫酸ガス臭があった。

▲ 諏訪之瀬島 [噴火]

十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、9 月 23 日昼過ぎに火山灰混じりの噴煙が南東方向へ流れているのが確認された。期間中集落 (御岳の南南西約 4 km) への降灰はなかった。

資料 1 2004 年 9 月の火山情報発表状況

火山名	情報の種類と号数	発表日時	概要
浅間山	火山観測情報第 6 号	1 日 11:45	火山性地震多発。レベルは 2。
	臨時火山情報第 1 号	1 日 20:09	20 時 02 分ころ噴火。レベルを 2 から 3 に変更。
	火山観測情報第 7 号	1 日 20:30	20 時 02 分の噴火の状況 (大きな爆発音と空振を観測、噴石が中腹以上に飛散)。レベルは 3。
	火山観測情報第 8 号	1 日 23:35	20 時 02 分の噴火の状況 (栃木県宇都宮市、福島県郡山市で降灰を確認、噴火に伴う傾斜計の変動あり。)。レベルは 3。
	火山観測情報第 9 号	2 日 10:00	1 日の噴火後の状況 (地震少ない状態。噴火に伴って発生した微動及び傾斜計の変動は 1 時間程度で収まる)。レベルは 3。
	火山観測情報第 10 号	2 日 16:30	1 日の噴火後の状況 (地震少ない状態)。レベルは 3。
	火山観測情報第 11 号	3 日 16:00	地震の少ない状態継続。レベルは 3。
	火山観測情報第 12 号	4 日 16:00	地震の少ない状態継続。レベルは 3。
	火山観測情報第 13 号	5 日 16:00	地震の少ない状態継続。火山ガス観測結果。レベルは 3。
	火山観測情報第 14 号	6 日 16:00	地震の少ない状態継続。5 日に微動発生。レベルは 3。
	火山観測情報第 15 号	7 日 16:00	地震の少ない状態継続。レベルは 3。
	火山観測情報第 16 号	8 日 16:00	地震の少ない状態継続。火山ガス観測結果。レベルは 3。
	火山観測情報第 17 号	9 日 16:00	8 日 15 時～9 日 15 時の活動状況 (小康状態続く)。
	火山観測情報第 18 号	9 日 17:35	浅間山の火山活動に関する火山噴火予知連絡会拡大幹事会見解。
	火山観測情報第 19 号	10 日 17:00	9 日 15 時～10 日 15 時の活動状況 (10 日 00 時前後に地震一時増加)。
	火山観測情報第 20 号	13 日 16:00	10 日～13 日 15 時の活動状況 (噴煙活動やや活発、地震・微動は少ない状態)。
	火山観測情報第 21 号	14 日 10:20	未明にごく小規模の噴火発生、群馬県高崎市で微量の降灰の通報あり。
	臨時火山情報第 2 号	14 日 15:43	15 時 36 分頃噴火。灰色の噴煙が火口縁上約 1,000m まで上がり東に流れる。
	火山観測情報第 22 号	14 日 16:10	15 時 36 分頃発生の噴火について (噴煙の高さ 2,500m まで上がる。噴煙の噴出は 15 時 43 分まで続く)。
	火山観測情報第 23 号	14 日 20:20	15 時 36 分頃発生の噴火について (降灰は火口から東南東に分布し群馬県安中市まで及ぶ)。噴火後の状況。13 日の火山ガス観測結果。
	火山観測情報第 24 号	15 日 08:30	未明にごく小規模な噴火が 2 回発生。噴煙及び降灰の状況。
	火山観測情報第 25 号	15 日 12:20	小規模な噴火が 3 回発生。噴煙の高さ火口縁上 1,500m。
	火山観測情報第 26 号	15 日 16:00	14 日 15 時～15 日 15 時の活動状況 (小規模な噴火が 15 回発生)。
	火山観測情報第 27 号	16 日 10:00	噴火が継続し、16 日 04 時頃から小噴火がほぼ連続的に発生。軽井沢測候所で、噴火に伴う弱い爆発音及び前日から断続的に降灰を観測。レベルは 3。
	火山観測情報第 28 号	16 日 16:06	小噴火がほぼ連続的に発生。軽井沢測候所で降灰及び断続的に弱い爆発音を観測。レベルは 3。
	火山観測情報第 29 号	16 日 19:40	小噴火がほぼ連続的に発生。18 時 40 分頃より火口縁付近で噴石の飛散を確認。レベルは 3。
	火山観測情報第 30 号	16 日 21:20	小噴火がほぼ連続的に発生し、広範囲で降灰が確認されている。降灰地域は関東地方南部に及ぶ。レベルは 3。
	火山観測情報第 31 号	17 日 00:25	小噴火がほぼ連続的に発生し、広範囲で降灰が確認されている。降灰地域に関する追加情報。レベルは 3。

火山名	情報の種類と号数	発表日時	概要
浅間山	火山観測情報第 32 号	17 日 10:05	小噴火がほぼ連続的に発生しているが、発生頻度はやや低下。軽井沢測候所で観測されていた断続的な弱い爆発音は 17 日 06 時 20 分頃収まる。レベルは 3。
	火山観測情報第 33 号	17 日 16:10	小噴火がほぼ連続的に発生。噴火に伴い発生した地震の回数は 16 日 23 時以降次第に減少。レベルは 3。
	火山観測情報第 34 号	18 日 10:00	噴火の発生頻度は低下したが、引き続き小噴火が時々発生。16 日 04 時頃からはほぼ連続していた小噴火の発生は、17 日 18 時 30 分頃収まった。レベルは 3。
	火山観測情報第 35 号	18 日 16:00	噴火の発生頻度は低下したが、引き続き小噴火が時々発生。上空からの火口観測で、火口内に直径約 100m の円形状の高温部を観測。レベルは 3。
	火山観測情報第 36 号	19 日 10:10	噴火の発生頻度は低下し、18 日 21 時 03 分以降噴火の発生はなし。レベルは 3。
	火山観測情報第 37 号	19 日 16:00	噴火の発生頻度は低下し、18 日 21 時 03 分以降噴火の発生はなし。国土地理院が 16 日に行った合成開口レーダー観測で、火口底のやや北東部に同心円状の地形の高まりが新たに形成されているのを確認。レベルは 3。
	火山観測情報第 38 号	20 日 10:10	19 日 15 時～20 日 09 時の活動状況 (噴火はなし、19 日夕方から 20 日 03 時頃まで断続的に肉眼で火映を確認)。レベルは 3。
	火山観測情報第 39 号	20 日 16:00	20 日 00 時～15 時の活動状況 (噴火はなし、19 日夕方から 20 日 03 時頃まで断続的に肉眼で火映を確認)。レベルは 3。
	火山観測情報第 40 号	21 日 10:00	20 日 15 時～21 日 09 時の活動状況 (噴火はなし、夜間山麓の高感度カメラにより断続的に火映を観測)。レベルは 3。
	火山観測情報第 41 号	21 日 16:00	21 日 00 時～15 時の活動状況 (噴火はなし)。レベルは 3。
	火山観測情報第 42 号	22 日 10:00	21 日 15 時～22 日 09 時の活動状況 (噴火はなし、夜間山麓の高感度カメラにより断続的に火映を観測)。レベルは 3。
	火山観測情報第 43 号	22 日 16:00	22 日 00 時～15 時の活動状況 (噴火はなし)。レベルは 3。
	火山観測情報第 44 号	23 日 10:00	22 日 15 時～23 日 09 時の活動状況 (噴火はなし)。レベルは 3。
	火山観測情報第 45 号	23 日 16:00	23 日 00 時～15 時の活動状況 (噴火はなし)。レベルは 3。
	臨時火山情報第 3 号	23 日 19:50	19 時 44 分頃噴火。レベルは 3。
	火山観測情報第 46 号	23 日 20:05	19 時 44 分頃噴火の続報 (噴火の規模は中程度、中程度の爆発音及び空振、軽井沢測候所で震度 1)。レベルは 3。
	火山観測情報第 47 号	23 日 22:25	19 時 44 分頃噴火の続報 (嬬恋村、長野原町の一部で降灰、火口の北北東約 4 km で直径 3 cm の火山レキを確認、噴火に伴う傾斜計の変動を観測)。レベルは 3。
	火山観測情報第 48 号	24 日 10:00	23 日噴火以降 24 日 10 時までの活動状況 (24 日 09 時 33 分にごく小規模な噴火が発生、噴火に伴う微小な空振を観測)。レベルは 3。
	火山観測情報第 49 号	24 日 16:05	24 日 00～15 時の活動状況 (09 時 33 分にごく小規模な噴火が発生、昨日の噴火で山形県、新潟県でも降灰あり)。レベルは 3。
	火山観測情報第 50 号	25 日 10:00	24 日 15 時～25 日 09 時の活動状況 (噴火はなし、25 日未明に高感度カメラで火映を観測)。レベルは 3。
	火山観測情報第 51 号	25 日 16:00	25 日 00～15 時の活動状況 (噴火はなし)。レベルは 3。
	火山観測情報第 52 号	26 日 10:00	25 日 15 時～26 日 09 時の活動状況 (25 日 18 時 36 分に小規模な噴火発生、有色噴煙の高さ火口縁上 1000m で北東に流れる、微小な空振を観測、25 日夜間に高感度カメラで火映を観測)。レベルは 3。
	火山観測情報第 53 号	26 日 16:00	26 日 00～15 時の活動状況 (噴火はなし、地震、微動やや多い)。レベルは 3。
	火山観測情報第 54 号	27 日 10:00	26 日 15 時～27 日 09 時の活動状況 (噴火はなし、地震、微動やや多い)。レベルは 3。

火山名	情報の種類と号数	発表日時	概要
浅間山	火山観測情報第 55 号	27 日 16:00	27 日 00~15 時の活動状況 (噴火はなし、地震、微動やや多い)。レベルは 3。
	火山観測情報第 56 号	28 日 10:00	27 日 15 時~28 日 09 時の活動状況 (噴火はなし、地震、微動やや多い、28 日未明に軽井沢測候所から肉眼で火映を観測)。レベルは 3。
	火山観測情報第 57 号	28 日 16:00	28 日 00~15 時の活動状況 (噴火はなし、地震、微動やや多い)。レベルは 3。
	火山観測情報第 58 号	29 日 00:43	29 日 00 時頃から地震がやや増加。28 日 22 時頃から傾斜計に変化あり。レベルは 3。
	火山観測情報第 59 号	29 日 08:15	29 日 06 時頃から再び傾斜計に変化あり。地震活動のやや活発な状態続く。レベルは 3。
	火山観測情報第 60 号	29 日 10:00	28 日 15 時~29 日 09 時の活動状況 (噴火はなし、地震やや多い、06 時頃から傾斜計の変化続く)。レベルは 3。
	火山観測情報第 61 号	29 日 12:26	12 時 17 分頃噴火。レベルは 3。
	火山観測情報第 62 号	29 日 12:45	12 時 17 分噴火の続報 (噴火の規模は中程度、軽井沢測候所で弱い爆発音を観測、御代田町で震度 1 を観測)。レベルは 3。
	火山観測情報第 63 号	29 日 16:00	29 日 00~15 時の活動状況 (12 時 17 分の噴火で、火口の北 4 km 付近に直径 4 cm 程度の火山レキ、嬬恋村、長野原町、草津町、六合村で降灰あり、地震、微動やや多い)。レベルは 3。
	火山観測情報第 64 号	30 日 10:00	29 日 15 時~30 日 09 時の活動状況 (噴火はなし、地震やや多い)。レベルは 3。
	火山観測情報第 65 号	30 日 16:00	30 日 00 時~15 時の活動状況 (噴火はなし)。レベルは 3。
三宅島	火山観測情報第 487 号 ↓ (1 日 2 回発表)	1 日 09:30 ↓	活動経過ほか (噴煙・地震・微動・空振・火山ガス・地殻変動の状況、上空からの観測結果、及び上空の風・火山ガスの移動予想)。
	火山観測情報第 546 号	30 日 16:30	
阿蘇山	火山観測情報第 44 号	3 日 11:00	火山活動は引き続きやや活発 (湯だまりの高温状態継続、湯量約 3 割、小規模な土砂噴出が数カ所で発生、微動連続状態)。レベルは 2。
	火山観測情報第 45 号	9 日 13:00	火山活動は引き続きやや活発 (湯だまりの高温状態継続、湯量が台風による降雨のため約 7 割に増加、小規模な土砂噴出が発生、微動連続状態)。レベルは 2。
	火山観測情報第 46 号	17 日 11:00	火山活動は引き続きやや活発 (湯だまりの高温状態継続、湯量約 7 割、小規模な土砂噴出が時々発生、微動連続状態)。レベルは 2。
	火山観測情報第 47 号	24 日 11:00	火山活動は引き続きやや活発 (湯だまりの高温状態継続、湯量が降水の影響で約 8 割に増加、小規模な土砂噴出が時々発生、微動連続状態)。レベルは 2。

資料 2 浅間山の火山活動に関する火山噴火予知連絡会拡大幹事会見解

平成 16 年 9 月 9 日、火山噴火予知連絡会は浅間山の火山活動について緊急に拡大幹事会を開催し、以下のとおり見解を發表しました。

平成 16 年 9 月 9 日
気 象 庁

浅間山の火山活動に関する 火山噴火予知連絡会拡大幹事会見解

浅間山は、今後も爆発的噴火を繰り返す可能性は否定できません。引き続き火山活動の状態を注意深く監視していく必要があります。

浅間山では、9 月 1 日 20 時 02 分、山頂火口で爆発的噴火が発生しました。この噴火は、大きな爆発音と空振を伴い、噴石を中腹まで飛散させました。火山灰は北東方向に流れ、降灰は福島県北部太平洋沿岸まで達しました。火口から約 4 キロ離れた北東側の山麓では、直径数 cm から 8 cm 程度の火山れきや岩塊が降下しました。噴出物量は 10 万トン程度と推定されます。傾斜計では、噴火に伴う火口直下の減圧によると考えられる変化が観測されました。

浅間山では、2000 (平成 12) 年以来、火山性地震や微動、火山ガス放出量が消長を繰り返しながら多い状態が続き、微小な噴火が発生するなど、火山活動はやや活発な状態が続いていました。噴火前日からも火山性地震が増加し、気象庁は火山観測情報を發表しました。

GPS 観測では、これまでも地下へのマグマ注入によると考えられるわずかな地盤の伸びが数ヶ月程度継続する現象が間欠的に観測されていましたが、今年 4 月頃からも同様の現象が続いていました。また、7 月下旬には山頂の近傍で微小な変動が観測されました。

噴火により放出された火山弾や火山ガスの分

析結果から、今回の噴火には、高温のマグマが関与していたと考えられます。

噴火後は、火山性地震や微動の活動は低下していますが、噴煙活動は活発で、1 日あたり約 1000～2000 トンの二酸化硫黄放出量が観測されています。地殻変動観測データには、顕著な変化は見られません。

以上のように、現在のところ、大規模な噴火が切迫していることを示す観測データはありません。しかしながら、高温のマグマが関与していることから、今後も爆発的噴火を繰り返す可能性は否定できません。引き続き、火口底の状況、噴煙活動、地震活動、地殻変動等を注意深く監視していく必要があります。